

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100459		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	沖縄県那覇市寄宮1丁目9番地の5		
自己評価作成日	平成 25 年 2 月 12 日	評価結果市町村受理日	平成26年度6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100459-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年 3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 笑顔と元気をモットーにしています。 入居者様に安心して生活していただけるように家庭的な環境、真心を込めて支援をいたします。 ご家族支援も大事に考え実践しています。 質の良いサービスの提供ができるように職員のスキルアップを行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>設立前から自治区長とのつながりを持ち、開設後も顔馴染みの関係を築きあげている。地域の行事にも積極的に参加し、職員が行事の運営を手伝うなど地域との連携に取り組んでいる。地域包括ケアセンター内での各種委員会を通して各事業所との横の連携が図られている。運営推進会議議事録、事故報告書、委員会参加記録等の記録・文書類が整理されている。同建物内に24時間対応の訪問看護ステーションがあり、家族等から安心感が得られている。ホームと同階フロアに小規模多機能型居宅介護事業所も併設され入居者が自由に行き来できるようなつくりとなっており、事業所の行事などで交流している。各居室の出入り口にカーテンがあり直接本人の着替え場面が見られないよう配慮されている。すべて女性職員のため女性の入居者に対しては同性介助を行っている。また直接個人情報外部の目に触れないようプライバシーにも配慮している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成26年4月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、職員詰所、ホーム内の見えやすい場所に理念を掲示し、全職員で理解・実践している。	現在の理念は管理者と主任が話し合い原案を法人事務局に挙げて承認された。これまでの管理者の地域密着型サービス事業所での経験から、「笑顔」「気づき」「自分の家」を理念の柱に盛り込んでいる。事業所内の各所に理念を掲示し職員間で目視してその内容を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の関わる4自治会の清掃活動、敬老会や新年会などに参加協力して交流を図っている。	開設前から近隣の自治区長にあいさつ回りをして事業所の説明を行っている。職員は自治区主催の敬老会・納涼祭・清掃活動等の裏方を手伝うことで顔馴染みの関係を築いている。今後近隣自治区住民のボランティア活動の受け入れを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域自治会の行事や運営推進会議の場において、ホームの取り組み等の説明をさせてもらい利用する認知症の人の理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設月より2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、ホームでの現状、支援内容等の報告、那覇市や地域包括支援センター、地域自治会の情報共を行っている。	開設間もない6月より定期的に推進会議を地域交流室で開催している。家族代表者、近隣の自治区長(4名)、市町村、地域包括支援センターが委員として参加しているが、入居者の参加はみられない。現在のところ会議内容は活動報告・事故報告等が中心となっている。開催案内及び議事録は直接委員へ手渡している。	今後は地域交流室だけでなくホーム内の共有スペースも活用しながら、入居者も参加しての推進会議の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎の「那覇市グループホーム連絡会」へ参加。情報交換や市の担当者からのアドバイス等、交流を図っている。	那覇市グループホーム連絡会に管理者等が参加し、市町村職員と情報交換している。介護報酬改定等制度改正にかかる情報を定期的に提供してもらっている。市町村よりキャラバンメイト等の要請を受けているがこれまで実績は見られない。日常的な入居者のケアマネジメントについては介護支援専門員が直接市町村担当職員と個別に面談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず身体抑制が必要と判断された場合には、ご家族への説明と同意を得て、介護記録への記載、抑制解除に向けてのカンファレンスを行っている。	当ホームは8階建の4階に立地し同階フロアは小規模事業所も併設されている。入居者が自由に行き来できるようお互いの事業所の出入り口は終日鍵が開いている。開設後管理者が身体拘束マニュアル等を用いて口頭でその内容を職員へ説明している。家族に対しては契約時にリスクについて説明している。	

沖縄県(グループホームたんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内、外部勉強会に参加し学び、職員全体で虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで該当者がいないため支援を行ったことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書等の書面、口頭にてしっかりと説明を行い、入居者様やご家族が理解、納得した上で契約、解除を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、行事への参加呼びかけている。家族会では意見、要望を確認している。	入居者は直接職員ミーティングに参加しその場で意見を挙げてもらっている。家族会を1度開催したが、家族同志初めての顔合わせというこもあり直接意見を提案してもらうことはなかった。運営規程等に苦情相談窓口を明記するだけでなく、家族等に直接管理者の携帯電話やメールアドレスを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティングにおいて職員の意見、要望を聞きだし、提案された事項は迅速に検討、反映されるように努めている。	業務改善、抑制廃止、ケアカンファレンスを内容とした職員全体会議を月1回開催している。基本的に職員の人事異動はないが本人の希望があれば行うこともある。外部研修への派遣だけでなく、研修計画に基づき事業所独自の内部研修にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理は常に配慮している。また、委員会の配置は各々の得手不得手を考慮し、力や能力が活かせる工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(認知症・防火管理・救急救命など)への派遣、定例会での研究発表する機会を設け、自己研鑽を図っている。		

沖縄県(グループホームたんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護者研修やガウディー会への参加調整を行い他事業所との交流を通して、ケアの質の向上、モチベーションアップを図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の実態調査において、本人様の要望や不安等を傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を確認、ホームのサービス内容、家族支援内容の説明をして、ご家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を基に詳細にアセスメントを行い、入居時の本人様の観察し、必要なサービス、方向性を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中で、炊事や家事、水撒き等、各々に合った役割を設け、手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会の声掛けや誕生会、行事等にご家族を交えた活動を通して、入居者さまが孤立しないように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方とホームでいつでも面会できる体制と「思い出ドライブ」などを行っている。	前任の介護支援専門員の退職に伴い9月に現在の介護支援専門員が入職している。入居者のこれまでの馴染みの人や場所に関する情報は過去のアセスメント記録から確認している。ほとんどの入居者が病院や施設から直接入居した方で、これまで家族からの情報だけで馴染みの関係を把握するまでに至っていない。	

沖縄県(グループホームたんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席の配慮、余暇活動への参加声掛けを行い、入居者様が孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が中止になった場合でも、ご家族の相談の機会づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の声を引出しを心掛け、意向の確認が困難な場合でも、ご家族からの情報収集を参考に入居者様に合った支援に努めている。	入居者本人の意向は居室担当職員が直接聞き取っている。月1回の職員全体会議において居室担当職員から介護支援専門員へ入居者本人から聞き取った意向や思いを伝えている。今後は入居者のこれまでの馴染みの場所を訪問していくことを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談の実態調査において、本人様やご家族から十分に話を聞き、利用していた事業所からの情報提供を依頼、把握して、ホームに入居しても、極端な環境の変化が起こらないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日常の変化に気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員は、定例ミーティングにおいて入居者様、ご家族からの要望、意見等を報告し職員からは、介護状況を情報共有し、迅速に対応している。	3か月ごとにモニタリングを行い、6か月ごとにサービス担当者会議を開催して介護計画の見直しを行っている。サービス担当者会議には入居者本人と家族以外に居室担当者も同席して意見を提案してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態、様子の変化等を個人記録、連絡帳へ記入して職員間で情報を共有し、迅速に対応をしている。		

沖縄県(グループホームたんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望、意見等がある場合は、迅速な検討、対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サービス計画書を作成する前に情報収集を行い、プラン作成に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が同法人「クリニック安里」からの訪問診療を受け、適切な医療を受けている。その他の入居者様の定期受診の場合でも情報提供や送迎支援等もやっている。	入居者の殆どが協力医療機関からの訪問診療を月2回受けている。その他、定期受診や専門医の受診について基本的には家族対応であるが、必要に応じて送迎や付き添いの支援を行っている。複合施設内に24時間訪問看護が待機している為、夜間でも対応可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一建物内にある「訪問看護ステーション」と24時間連携し、入居者様の薬剤、体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院前の経過報告、情報提供、退院前のカンファレンス会議への参加をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時にホームにおける終末期の対応や長期入院による退居があり得ることを説明、理解してもらっている。	事業所として、重度化や終末期に向けての方針は明文化していないが、家族とかかりつけ医、訪問看護等関係者を交えての話し合いを予定している。職員の研修会や勉強会は行っていないが、管理者の看取りの経験などを口頭で伝えている。今後、医療関係者からの研修会や勉強会が必要であると認識している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成、設置している。また、全が職員、AED研修を受講して、知識、技術の実践力を身に付けている。		

沖縄県(グループホームたんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルの作成、掲示を行っている。避難訓練を行ったが、地域との協力体制は未だ確立されていない。	12月に同複合施設3階の消防訓練が行われた際に、事業所も入居者と職員で避難経路の確認等自主訓練を行ったが、実践的な避難訓練は行われていない。火災・地震の避難マニュアル、避難経路図を作成し掲示している。近隣の小学校から、水害時の緊急避難場所として、受け入れを要請されている。	今後は、消防署協力の基、複合施設合同の日中・夜間を想定した総合訓練の実施、災害に備えた備品や備蓄の準備に努めていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、接遇を意識し、入居者様への声掛けに気をつけている。声掛けに不適切な場面では、職員間で注意し合うように心がけている。	複合施設内の接遇委員会に担当者が参加し、他の職員へ伝え、情報共有している。全居室扉の内側にカーテンを設置し、入居者が居室で休まれる際に配慮している。個人情報ファイルは、ボックスにカーテンを設置しプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定できる声掛け、環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好きな洋服を選んでもらい更衣している。また、自宅から姿見を持ってきてもらいおしゃれを楽しんでいる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際のもやしのひげとり、野菜切り、食後の食器洗いなど、入居者様の力量に合わせた役割を行っている。	法人の栄養士が献立を作成し、材料は配達されている。3食とも事業所内で職員が交替で調理している。入居者は、野菜の下ごしらえや食器洗い等で参加している。入居者の状態や希望を聞いて、ご飯とアチビーを選んでもらっている。職員は入居者の食事介助等の後に、お弁当等を持ち込み食している。	食事が楽しみなものになるよう、入居者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを食べられる取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立表を使用して栄養バランスは整っている。チェック表を活用して食事摂取量や水分摂取量の把握に努めている。		

沖縄県(グループホームたんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア支援を行っている。状態によっては、訪問歯科を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握、定時のトイレ誘導、オムツ交換を行っている。	排泄自立の方が4名、現在、体調を崩している為オムツ使用1名、他の入居者は日中トイレ誘導を行っている。下肢筋力が低下している方も、職員が2名体制で介助を実施する等、入居者の排泄状況に応じて、出来るだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防(水分摂取や運動)に取り組んでいる。毎朝、おやつ時に乳飲料やヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴の曜日設定をしているが、希望によっては曜日変更の対応もしている。一人の職員が入居者様のペースに合わせて脱衣、入浴、着衣、整容までの支援を行っている。	入浴日は、基本的に週2回～3回と曜日を設定しているが、希望によって変更可能である。以前は、入浴を拒否する方もいたが、根気よく声掛け誘導したことで、現在は、拒否することなく入浴している。脱衣所と浴室の温度差をなくするため冷暖房を使用し、調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと休息してもらえるように、居室内外の環境、空調調整などを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護師を中心に薬の管理を行っている。薬の諸注意や用法についてはカルテに綴っていつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みを把握、し花壇の水やり、カラオケ、体操、塗り絵、マッサージなどを職員と一緒に楽しんでいる。		

沖縄県(グループホームたんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員や家族が同行して近くの公園や小規模ホーム、階下へ散歩しに出かけている。おやつを買いにスーパーまで車で行くこともある。	同フロアーの小規模多機能ホームへは、ご近所の感覚で出かけ交流している。近隣のスーパーへ買い物や公園の桜まつり、ドライブでは海軍豪公園、ふるさと訪問など車椅子利用者も一緒に出掛けている。外食や公園を散歩するなど、家族の協力を得て個別の外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員が家族管理。ホームではお小遣いを預かり、金銭出納帳に記入して買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の要望に合わせて、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファの配置に工夫して、安全に楽しくつづる環境づくりに取り組んでいる。	玄関にはお花の好きな入居者の家族が活けてくれた生け花が並んでいて、季節感を採り入れている。対面式キッチンで調理しながらでも入居者の様子がわかる造りになっている。カウンターは入居者が座った状態で作業できるよう設置している。畳間には、移動式の収納棚を配置し、足を伸ばして休めるよう居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置に気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段から使用していた家財道具や小物などを自由に持ってきてもらい、できるだけ自宅での環境に近づけるようにしている。	各居室には、ベッドや整理ダンスが設置されている。入居者は、馴染みのテーブル、椅子、クッション、テレビや時計などを持ち込み、入居者が居心地よく過ごせる環境をつくっている。入居前は布団での生活だったと家族から聞き取り、ベッドから布団の環境に変更する予定の方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目で見て分かるように掲示物(表示)にて場所を示している。		